令和８年度　授業改善推進プラン　　５年　　小平市立小平第十一小学校

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①　基礎的・基本的な「知識・技能」の確実な定着 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②　自己調整力を育む「振り返り」の質の向上 【ICT 機器の活用】	①　「思考・判断・表現」においては、正答率が 88%と非常に高く、自分の考えを構築する力がある。一方で、「知識・技能」においては、正答率が 72%、特に漢字小テストは 70%と、基礎の定着においてさらに高める必要がある。 ②　ICT 機器を用いた「振り返り」の提出率は約 85%と高く、さらにそのうちの約３分の２の児童が自らの学びを具体的に書くことができている。一方で、残りの児童は、提出が滞っていたり、記述が抽象的であったりするという課題がある。	①朝学習や隙間時間にデジタルドリルの漢字ドリルを導入し、個々の習熟度に応じた即時フィードバック付きの反復練習を行う。さらに、漢字小テストに向けた漢字練習を自主学習の宿題とし、児童が見通しをもって自主的に学習に取り組む習慣を育てる。 ②「～が分かった」「次は～したい」などの視点を示した振り返りカードを活用し、記述が苦手な児童の言語化を支援する。提出された良い振り返りを毎時間の導入で全体に共有し、記述の具体例をクラス全体で学び合う。
社会	①　基礎的・基本的な学力の定着 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②　ICT 機器を用いた調べる活用と考えの共有 【ICT 機器の活用】	①　意欲的に学ぶ児童が多いが、大陸名・国名や社会科用語などが定着しづらい。また、資料の事実を読み取ることはできるが、そこから考えや疑問をもったり、まとめたりすることに課題がある。 ②　教科書以外にデジタルの資料や動画を用いたことで、社会科が苦手な児童も意欲的に調べることができた。一方で、必要な事実を取り出すために、資料を選択・判断したり、事実から考えを見いだしたりすることに課題がある。	①　用語を復習するミニワークを行う。また、グラフ資料から読み取った数値に対して、最大値・最小値の理由や変化の理由など考える視点を適宜示すようにする。 ②　資料を提示する際、教科書や資料集、動画資料などの中から、調べる内容に適している資料を示す。資料の読み取る手順を確認してから読み取りに入るようにしたり、読み取ったことと、そこから考えたことを分けて記述できるようにしたりする。
算数	①　「問題発見」「自力解決」「集団検討」「統合的・発展的な考え方」の学習過程を主体的に取り組めるような授業形態・内容・方法の工夫 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②　ICT 機器を用いた考えの共有 【ICT 機器の活用】	①　東京ベーシック・ドリル算数４年診断シート A において、正答数７割以上の児童が４月実施で 49%、６月実施で 52%となっている。 ②　数直線や立体の変形を教科書コンテンツを利用することで視覚的に演算決定を行ったり、辺と辺や角と角の関係に気付いたりなど活用してきた。	①　授業において、単元の学習に関わる前年度までの学習内容や単元の前時までの学習内容を振り返る時間を確保し、より多くの児童が「自力解決」に主体的に取り組めるようにする。診断シート B および C の実施で、正答数７割以上の児童が 80%を上回ることを目指す。 ②　今後も演算決定や図形の変形などで活用する。児童の学習に対して個別最適化を図るために ICT 機器を活用する。さらに、共有する場面で使用することで考えを深められるようにする。
理科	①　問題解決の過程を通して、理科的な資質・能力を習得できる活動の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②　ICT 機器を用いた問題解決と考えの共有 【ICT 機器の活用】	①　変化とその要因との関わりに気付くよう、条件を関係付けながら実験方法を確認した。結果と条件の関りを整理して考察を書くことに課題がある児童が 1/3 程度いるので、そのような力をつけることが課題である。 ②　学習支援アプリを、課題の把握や、結果の記録、振り返りに活用している。考えを深めるために児童同士の対話をより活発にできるようにすることが課題である。	①　観察・実験ごとに、条件制御の考え方を確認する。実験をふまえて、条件と結果の関わりを考えさせ、考察にまとめられるようにする。必要に応じて、考察に使うとよい話型を示す。 ②　問題解決の過程で、必要に応じて、観察物の記録や、実験結果の整理に活用する。また、振り返りの記入に ICT 機器を活用する。学習支援アプリを活用し、予想や考察を共有して自分の考えを深められるようにする。
音楽	①　学ぶ楽しさを実感させる授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ②　興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用 【ICT 機器の活用】	①　ほとんどの児童が主体的に授業へ参加しており、特に器楽の学習への意欲が高い。 ②　アンケートよりソプラノとアルトを重ねて歌うことや、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて考えたり、曲想にふさわしい表現を考えたりすることに難しさを感じていることが	①　共通事項をもとに指導内容を焦点化し、相互意見交流や音楽表現を介した交流を通して、音楽表現を深めていく。録音や録画を活用して、演奏を振り返り、次の課題の見通しをもって主体的に活動できるようにする。 ②　要素とその働きの視点から分析的に示し、言葉と音をつなげることで考えを広げ、深めていくことができるようにする。ICT 機器を活用し、思いや意図を視覚化できる教材教具を用いる。また、

		分かる。特に技能の習熟に関して、一人ひとりの学習過程に応じた支援を充実させたり、知覚・感受したことを交流したりすることで、発想へ進展させていくようにする。	児童が自身の学習を評価し、自分自身で課題を選択、設定できるようにしたりすることで、主体性をもって技能の習熟を図るようにする。
図画 工作	① 学ぶ楽しさを実感させる授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 振り返り活動の充実 【ICT 機器の活用】	① 児童アンケート項目「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答をした児童が 100%であった。この事からすべての児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ② 制作活動中や制作後に互いの作品を鑑賞し合う活動が、互いのよさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることのできる児童が少ない。	① 針金や電動糸のこぎりなど、新しい材料や用具についての経験を充実させ、児童が表し方や材料を自ら考えたり決定したりすることができるようにする。今後のアンケートでも「すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答が 100%近く得られるようにする。 ② 作品完成後だけでなく、制作活動中であっても互いの作品を鑑賞したり互いに相談し合ったりしながら問題解決ができるように授業を展開していく。また、一人一台端末を使用して作品の共有を行い、学びを深めていけるようにする。題材末の児童の振り返りなどから授業者の授業改善を振り返る。
体育	① 自己の課題に合わせた体育的活動の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実 【ICT 機器の活用】	① 児童アンケート項目「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答をした児童がほとんどであった一方で、「あまりそう思わない」の否定的な回答をした児童もいた。少数ではあるが、すすんで学習に取り組めていない児童が意欲的に取り組めるように工夫が必要である。 ② 動きのポイントを理解していても、自己の課題を適切に把握したり、その後の運動に生かしたりすることができていない児童が多くいるため、自分自身の動きを把握することが必要である。	① 運動することに苦手意識をもっている児童も意欲をもって取り組むことができるように、それぞれの運動領域の中でも取り組みやすい技や動きをはじめに紹介したり、主運動につながる運動に取り組んだりする。また、ボール運動などの領域においては、ルールを簡易的にしたり、児童が話し合ってルールを考案したりしてすべての児童が取り組みやすい工夫をする。 ② 運動のポイントを写真や動画で示すことに加え、ポイントと自己の動きを比較できるように、ICT 機器を活用し、自分の動きを把握できるようにする。また、撮影した映像などを用いてポイントと照らし合わせながら振り返りを行う。
家庭	① 主体的に自己を見つめ、生活に活かそうとする授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた、理解を深める授業の充実 【ICT 機器の活用】	① ほとんどの児童が主体的に学習参加することができている。特に「調理」分野への意欲がとても高く、グループで協力して、段取り良く調理実習を行うことができている。 ② 動画を何度も見て、挑戦することを価値付けしたことで、粘り強く取り組む児童が多く見られた。動画を活用し、活動の進度を自由にしたことで、意欲的取り組めている。	① 技術面に関しては個人差があるため、早く作業が終わる児童と時間が必要な児童それぞれの対応が大切である。学校支援ボランティアと連携し、全員が「できた」と実感できる個に応じた指導をしていき、引き続き 9 割以上を継続できるようにする。 ② 指導者の手元をテレビ画面に映したり手本になる写真や動画を繰り返し確認したりするなど、さらに ICT 機器の活用を進める。振り返りの内容を蓄積して振り返りやすくすることで、自身の成長を感じ取ることができるようにする。
外国語	① 考える時間が確保された授業の実施 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた言語外情報としての視覚教材の活用 【ICT 機器の活用】	① 多くの児童が主体的に授業へ参加している。 ② 児童は英語の初期学習段階であり、言語外情報である視覚情報が必要不可欠である。すべての児童が主体的に意味理解をし、言語材料を習得できるよう、視覚教材の工夫をすることが必要である。	① 互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して指導を行い、児童がどういう意味なのか、考えながら英語を聞いたり、自分で考えて自分の思いに合わせて英語を発したりする機会を大切にした授業を行う。 ② 児童の理解促進のための言語外情報の視覚教材として ICT 機器で絵や写真を提示し、活用する。また、動画教材を使うことで児童が集中して言語材料に慣れ親しみ続け、主体的に言語材料の意味内容を捉えて習得につなげられるようにする。
道徳	① 主体的に自己を見つめ、生活に生かそうとする授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】	① 資料から登場人物の気持ちに寄り添ったり場面から様子を想像したりすることはできるが、自己の生活に結び付けて今後に生かそうと考えることが難しい児童が多い。	① 授業の導入や教師の説話で児童の身近にあるような話題や出来事を取り上げ、児童が自己の生活に結び付けて考えやすいように授業を工夫する。

	② ICT 機器を用いた、自己の考えを深める授業の充実 【ICT 機器の活用】	② 自分の考えをもつことに時間を要したり、表現したりすることに難しさを感じている児童が多い。	② 学習支援アプリ等を用いて、書くことに苦手意識がある児童も自分の考えを表現しやすいようにする。また、学習支援アプリを活用して考えを共有する時間を設け、自己の考えを深める機会を増やす。

評価の方法は、学校評価及び実施可能な教科は単元ごとのテスト等の正答率・到達率とする。